大田村誌、ついに完成。

お待たせしました！　大田村誌が、ついに発刊。
美しく誇り高き村を築いた日々の大切な「1ページ」。

【旧大田村データ】昭和29年10月1日、田原村と朝田村が合併。村の木：くぬぎ、村の花：つつじ、村の鳥：めじろ。

村名「大」と「田」の由来【田原と朝田、2つの村が一緒になって大きくなった。将来とも大きく栄えゆくように】

1 事業の始まり

平成21年2月にスタートした「大田村誌編さん事業」。

大田村発足後、初めての「村誌」。村長を務めた酒井富蔵氏が村内の文化財を中心にまとめた「大田村誌」や、平成16年の「村制50周年記念誌」などがあるものの、自治体としての歩み、産業などの統計を一編にまとめあげた「村誌」は、これまでなかった。

大田村が歩んだ、半世紀にわたる日々を編さんするという、一大事業が始まった。

2 少数精鋭にも…!?

大田村誌は、全6編と、特別編、資料編で構成され、900ページを超える構成になっている。この大がかりな作業に、委嘱を受けた委員は6名。

昨年完成した山香町誌が、委員26名で資料収集や原稿の執筆をしたことに比べると極端に少ない。

「人手の少なさもそうだが、何から手をつけていいか、何の資料を集めればよいか…それを決め、書きはじめるまでに時間がかかった。」と、小林事務局長。

「大田村発足後、2度も庁舎を改築・移転し、その時に資料の整理が行われたのだろう。」

資料収集や調査は、特に難航したという。

「村内の人から聞き取りをしても、50年も昔のことは、なかなか覚えていない。民間会社でも組織の統廃合があり、資料の収集先が特定できないこともあった。」

それでも、なんとか記憶をたどりながら作業を進めた。

委員の皆さんが書いた原稿が届いてからも、全体の体裁を整えたり、追加資料を探したりと、膨大な作業が―。

「期限がどんどん迫って、やってもやっても追いつかなかった。」と坂本さんは振り返る。

「ほんとに終わらんのじゃねぇかなぁ…」最後までそう感じた2年間。ほんの数日前まで仕上げをしていた二人。

取材時は、完成の喜びというより、疲れや安堵を感じさせる笑顔が印象的だった。

【事務局長：小林　茂】
「本当に苦難の連続だった。まもなく納品される完成版が楽しみ。」

「最初で最後」ではなく、次につながる村誌になれば。

【事務局員：坂本えり】
「少しでも親しみやすく、読みやすくなればと、写真選びにも力を入れた。」

3 親しみやすく読みやすく

「資料の少ない中、短期間・少人数で編さんした部分も多いため、学術的な部分にあまり触れることができなかった。」小林局長は、そう心配する。

坂本さんは「時間に追われながら、少しでもわかりやすく、読みやすくを心がけ校正作業を進めた。」と話す。

学術的な側面を取り入れるため、他の自治体誌にはあまり例のない企画がある。大田村「田原谷」、「波多方」、「俣水」の歴史をまとめた「特別編」だ。

これは、以前国東半島を詳しく調査した県埋蔵文化財センター職員の執筆によるもので、古代から中世にかけて、大田村地域の文化の成り立ちを、細やかに解説している。

4 村の歴史は、これからも…

「やっぱり50年は長い。その時々の、生の声をもっと引き出したかった。」二人から、今後のアドバイスを聞いた。

職員のメモ書きでも大切な資料になるそうだ。

農業で例えると、単純な作物の種別や売上高ではなく、地区ごとの出来高や耕地面積、となりの畑で何を作っていたか。新しい農産物を作り始めたときの、多くの人の苦労話や反対意見。そして、今どう感じるかとの対比。

当時の人々の考え方、その根拠や移り変わりも紹介できると、そこに住んできた「人」や「生活」、「文化」がより鮮明になるのだという。

「先人が守り、育ててきた大田村の歴史を後世に伝え、その経験を役立ててもらいたい。」小林局長が語るこの願いが、自治体の歴史をまとめる本当の意味ではないだろうか。

歴史を紡ぐことの重要性とともに、私たち自身が、今まさに歴史を築いているのだと強く感じさせられた。

「次にある杵築市誌の編さん。その中で、新たな角度から大田村を著してもらえれば。」そう想いを託す二人に尋ねた。

―今後、杵築市誌の編さんがあれば、参加したいですか？

「…」（しばらく間があり）、「次の世代にお願いします！」

小林局長と坂本さんから、とびきりの笑顔が返ってきた。

杵築市との合併は、長い歴史の、ほんの1ページに過ぎないのかもしれない。

美しく誇り高き大田村。

その歩みと、人々の暮らしはこれからも続いていく。

4月20日販売開始

●販売価格　4,000円（税込）
●販売場所　大田庁舎（大田振興課）
※郵送をご希望の場合は、別途送料が必要です。
●申込方法　購入申込書、ハガキ、FAX、電子メールのいずれかで、必要事項を記入してお申し込みください。
●必要事項　①購入冊数②受取方法（「大田庁舎で直接受取」か、「郵送」のどちらか）③申込者の住所・氏名・電話番号

【申込先】
住所：〒879-0901　杵築市大田石丸445番地
「杵築市役所　大田振興課」あて
FAX番号：0978-52-2762
電子メールアドレス：o-sinkou@city.kitsuki.lg.jp

郵送の場合は、受付後に振込用紙をお送りします。
「購入申込書」は、市役所各庁舎にあります。
【問い合わせ】杵築市役所・大田振興課
☎0978-52-2222　**電話での申込みは不可**

▲横岳自然公園：横岳荘

【大田村簡易年表】

（明治）5年	大田村は7か村となる。
22年	町村制実施、小野村・永松村・沓掛村・石丸村が田原村に。俣水村・白木原村・波多方村が朝田村になる。
（昭和）3年	ラジオが村内にはじめて取り付けられる。
25年	国勢調査。田原村人口2418人、朝田村人口2416人。
29年10月	田原村と朝田村が合併して大田村に。
33年	大田村報第一号発行。波多方＝杵築間定期バス運行開始。60年来の大干ばつ発生。
38年	大豪雪。1か月余りバス不通になる。
47年	安岐ダム完成。
54年	浩宮殿下が田原家五重塔をご見学。
56年	特別養護老人ホーム「瑞雲荘」落成。
（平成）3年	台風19号による被害甚大。高齢化率30％超え（当時県内1位）。
4年	宿泊施設「横岳荘」完成。
9年	第1回全国どぶろくサミットin大田開催。
15年	交通死亡事故7000日達成。
16年	大田村制50周年。
17年10月	新杵築市誕生。

大田村誌←